

平成 29 年度決算について

交 通 局

〈自動車事業会計〉

I. 事業報告	1
II. 決算の概要について	2

〈高速鉄道事業会計〉

III. 事業報告	5
IV. 決算の概要について	6

V. 平成 29 年度 主要事業について

1. 新規事業	12
2. 継続事業	
①. 安全で信頼される公共交通	15
②. まちづくりや地域社会への貢献	21
③. 「市民の足」であり続けるための経営基盤強化	23

〈自動車事業会計〉

I 事業報告

1 概 況

本市自動車事業は、昭和5年9月の事業開始以来、市民の日常生活や経済活動に必要な不可欠な生活基盤としての役割を担い、その整備・充実に努めてきた。しかしながら、社会経済環境の変化に伴い、乗客数は減少傾向をたどり、現在においても厳しい財政状況となっている。

一方、急速な少子・超高齢化の進行への対応や、低炭素社会実現に向けた取り組みが求められており、公共交通機関の果たす役割はますます大きなものとなっている。

神戸市交通局では、公営交通としての役割と企業としての経済性の両立を果たすため、これまでも、厳しい経営環境、財政状況の中、「市民の足」を確保し、次世代に求められる「市営交通サービス」の提供を目指して、「神戸市交通事業の経営改革プラン《レボリューション2004》」（平成16年度～18年度）、「神戸市営交通 ステップ・アップ プラン」（平成19年度～22年度）、「神戸市営交通事業 経営計画2015」（平成23年度～27年度）による経営改革を進めてきた。

平成29年度は、平成28年3月に策定した「神戸市営交通事業 経営計画2020」（平成28年度～32年度）に基づき、施策の実現に全力で取り組み、また徹底した経営改善を推し進め、安全で信頼できるサービスの提供とこれを支えるしっかりとした経営基盤の確立に取り組んだ。

平成29年8月には、神戸市営交通100周年を迎え、これまでご利用いただいていたお客様への感謝の気持ちを伝えるとともに、交通事業に対する理解、関心を深めていただき市バスの利用促進につながるよう、利用促進に向けた施策や記念イベントを実施した。これからも多くのお客様に信頼され、安心、満足してご利用いただける市バスであり続けるため、さらなる乗客増対策や経営の効率化に取り組むことにより、財政の健全化に努め、将来にわたり「市民の足」である市営交通としての役割を積極的に果たし、神戸のひとの暮らしとまちの発展を支えていく。

ア 運輸成績

平成29年度の乗車人員は6,817万人（1日平均19万人）、乗車料収入は98億6,582万円（1日平均2,703万円）となった。

イ 主要事業

平成29年度は、8月に市電営業開始より数えて市営交通100周年を迎え、感謝の気持ちを込めてこれまでの歩みや果たしてきた役割をご理解いただくとともに、市バスのさらなるご利用につなげていけるよう、記念事業を実施した。

また、パソコンやスマートフォンで、バスが実際にどこを走っているのか、ご確認いただける「バスロケーションシステム」を提供し、さらに、システム運用で使用している車載機器を活用した第二弾の実証実験として、利用者・市民へのさらなる情報発信となるデジタルサイネージや車外カメラの設置について検討を進めるなど利便性向上に努めた。

さらに、上屋の設置できないバス停におけるバス待ちの環境を改善するため、バス停（10ヶ所程度）に100周年記念ロゴを表記した置き傘を設置するなど、より多くのお客様により快適に市バスをご利用いただけるよう取り組んだ。

ウ 経理状況

収益的収入は補助金の減少や乗車料収入の落ち込み等の影響で106億9,528万円となり、平成28年度に比べ6,283万円（0.6%）の減少となった。一方、支出の総額は108億2,993万円となり、平成28年度に比べて2億2,980万円（2.1%）の減少となった。

この結果、当年度純損失は1億3,465万円となり、当年度の未処分利益剰余金は3億9,048万円となった。

II 決算の概要について

1. 業務量

業務の種別	29年度	28年度	実績増減		
	業務実績 A	業務実績 B	A-B(C)	率 C/B	
営業キロ程 (km)	369.59	367.72	1.87	0.5	
在籍車両数 (両)	515	517	△2	△0.4	
運転車両数 (両)	160,019	162,344	△2,325	△1.4	
運転走行キロ (千km)	17,274	17,534	△260	△1.5	
乗車人員 (千人)	68,168	68,348	△180	△0.3	
乗車料収入 (千円)	9,865,818	9,915,302	△49,484	△0.5	
営業日数 (日)	365	365	—	—	
一 日 平 均	運転車両数 (両)	438	445	△7	△1.6
	運転走行キロ (km)	47,326	48,038	△712	△1.5
	乗車人員 (人)	186,763	187,255	△492	△0.3
	乗車料収入 (千円)	27,030	27,165	△135	△0.5

※乗車人員・乗車料収入は敬老福祉パスを含む

※乗車料収入は税抜

<参考>

1. 敬老・福祉乗車等負担金

(単位:千円)

	26年度決算	27年度決算	28年度決算	29年度決算
敬老パス	2,156,370	2,138,494	2,112,288	2,121,255
敬老利用者負担額	809,851	798,139	779,473	800,679
敬老バス負担金	1,346,519	1,340,355	1,332,815	1,320,576
福祉パス等負担金	515,339	546,689	539,730	534,524
合計	2,671,709	2,685,183	2,652,018	2,655,779

2. 1日あたりの乗客数の推移

(単位:人)

	26年度決算	27年度決算	28年度決算	29年度決算
有料乗車	132,674	133,328	131,675	130,648
敬老パス	35,552	35,329	34,887	35,593
福祉パス等	21,060	20,907	20,693	20,522
合計	189,286	189,564	187,255	186,763

2. 経営成績

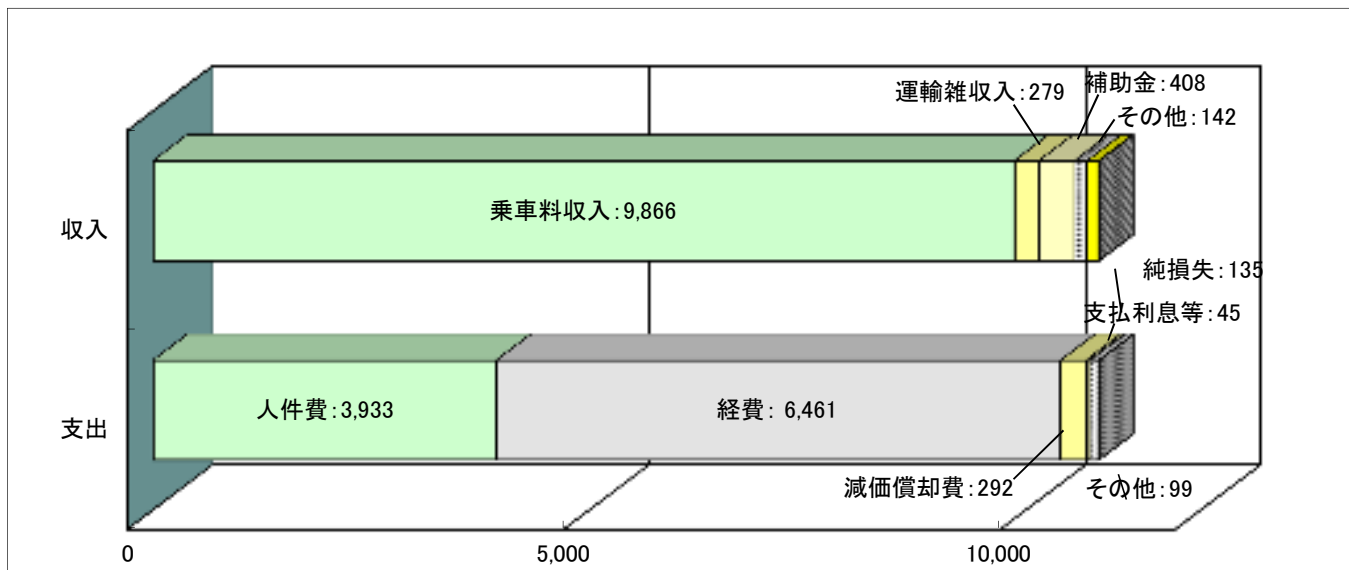
(単位:百万円、税抜)

区 分		29年度決算 a	28年度決算 b	比較増減 a - b	伸び率(%) (a-b)/b	
収 益 的 収 支	収 入	営 業 収 益	10,145	10,189	△ 44	△0.4
		運 輸 収 入	8,010	8,042	△ 32	△0.4
		定期・定期外	7,210	7,263	△ 53	△0.7
		敬老利用者負担	800	779	21	2.7
		敬老福祉パス	1,856	1,873	△ 17	△0.9
		敬老パス負担金	1,321	1,333	△ 12	△0.9
		福祉パス等負担金	535	540	△ 5	△0.9
		そ の 他	279	274	5	1.8
	入	営 業 外 収 益	476	569	△ 93	△16.3
		一般会計補助金	401	494	△ 93	△18.8
		長期前受金戻入	27	32	△ 5	△15.6
		そ の 他	48	43	5	11.6
		特 別 利 益	74	-	74	皆増
	計	10,695	10,758	△ 63	△0.6	
	支 出	営 業 費 用	10,686	10,916	△ 230	△2.1
		人 件 費	3,933	4,212	△ 279	△6.6
		経 費	6,461	6,318	143	2.3
		減 価 償 却 費	292	386	△ 94	△24.4
		営 業 外 費 用	144	143	1	0.7
支払利息及び諸費		45	46	△ 1	△2.2	
そ の 他		99	97	2	2.1	
計	10,830	11,059	△ 229	△2.1		
経 常 損 益		△ 209	△ 301	92	30.6	
純 損 益		△ 135	△ 301	166	55.1	
累 積 損 益		390	525	△ 135	△25.7	
資 本 的 収 支	収 入	企 業 債	396	219	177	80.8
		補 助 金	-	25	△ 25	皆減
		他 会 計 繰 入 金	330	450	△ 120	△26.7
		財 産 収 入	199	1	198	19,800.0
		そ の 他	1	1	-	-
	計	926	696	230	33.0	
	支 出	建 設 改 良 費	401	247	154	62.3
		企 業 債 償 還 金	399	648	△ 249	△38.4
		資本費平準化債償還金	53	53	-	-
		保 証 金 返 還 金	3	-	3	皆増
計		856	948	△ 92	△ 9.7	
収 支 差 引		70	△ 252	322	127.8	
累 積 資 金 過 不 足		△ 1,714	△ 1,608	△ 106	△6.6	

*資本的収支は税込

<参考>

①経営状況 平成29年度決算



※ 乗車料収入には、敬老福祉パス負担金を含む

②職員数

(単位:人)

	30年度 予算	29年度 (A)	28年度 (B)	増△減 (A-B)
損益勘定	378	381	383	△ 2
事務	81	84	86	△ 2
技術	22	22	22	0
技士	16	16	16	0
運転士	259	259	259	0
合計	378	381	383	△ 2

④経営指標

	30年度 予算	29年度 (A)	28年度 (B)	増△減 (A-B)
営業係数	104	105	107	△ 2

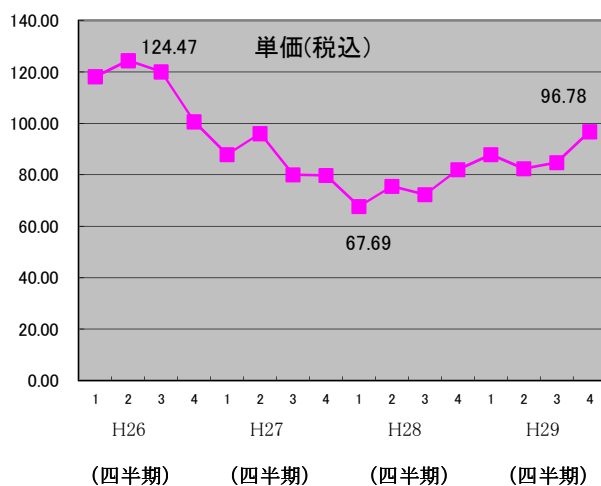
③企業債残高

(単位:百万円)

	30年度 予算	29年度 (A)	28年度 (B)	増△減 (A-B)
年度当初残高	2,715	2,771	3,253	△ 482
償還額	308	452	701	△ 249
借入額	230	396	219	177
年度末残高	2,637	2,715	2,771	△ 56

⑤軽油価格

(円/ℓ、税込)



年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
28年度	67.69	75.52	72.28	82.04
29年度	87.83	82.43	84.80	96.78

〈高速鉄道事業会計〉

Ⅲ 事業報告

1 概 況

本市高速鉄道事業は、昭和52年3月に新長田～名古屋間で営業を開始し、昭和62年3月の西神・山手線全線開通により、新神戸～西神中央間22.7キロメートルで営業を行っている。昭和63年4月には、北神急行電鉄（新神戸～谷上間7.5キロメートル）との相互直通運転により、西北神地域と都心部を結ぶ“みどりのUライン”が完成した。また、平成13年7月には、新長田～三宮・花時計前間7.9キロメートルの海岸線が開業し、両線合わせて30.6キロメートルで営業を行っている。

財政状況について、地下鉄事業全体の経常損益としては、平成25年度から5年連続で、黒字を計上した。線別で見ると、西神・山手線は、平成15年度以降、継続して純利益を計上しているが、海岸線は、依然として、減価償却費・企業債利子といった資本費負担が大きく、純損失を計上し、多額の累積欠損金・累積資金不足を抱えている。

一方、急速な高齢化の進行への対応や、低炭素社会実現に向けた取り組みが求められており、公共交通機関の果たす役割はますます大きなものとなっている。

神戸市交通局では、公営交通としての役割と企業としての経済性の両方を果たすために、これまでも、厳しい経営環境、財政状況の中、「市民の足」である市営交通を維持・存続させるため、「神戸市交通事業の経営改革プラン《レボリューション2004》」（平成16年度～18年度）、「神戸市営交通ステップ・アッププラン」（平成19年度～22年度）、「神戸市営交通事業経営計画2015」（平成23年度～27年度）による経営改革を進めてきた。

平成28年度からは、「神戸市営交通事業経営計画2020」（平成28年度～32年度）により、「改善型地方公営企業」としてさらなる経営改善とお客サービスへの向上に取り組んでおり、平成29年度は、累積欠損金の縮減と海岸線ランニング収支の均衡に向けた収支改善という財政目標について単年度目標額を達成することができた。しかしながら、依然として多額の累積欠損金を抱えていることに加え、今後車両・設備などの、大規模更新により、多額の修繕費、設備更新費が見込まれるなど、厳しい経営環境、財政状況にあることには変わりはない。

平成29年8月には、神戸市営交通100周年を迎え、これまでご利用いただいていたお客様への感謝の気持ちを伝えるとともに、交通事業に対する理解、関心を深めていただき地下鉄の利用促進につながるよう、利用促進に向けた施策や記念イベントを実施した。これからも多くのお客様に信頼され、安心、満足してご利用いただける地下鉄であり続けるため、さらなる乗客増対策や経営の効率化に取り組むことにより、財政の健全化に努め、将来にわたり「市民の足」である市営交通としての役割を積極的に果たし、神戸のひとの暮らしとまちの発展を支えていく。

ア 運輸成績

平成29年度の西神・山手線の乗車人員は9,620万人（1日平均26.3万人）、乗車料収入は166億3,315万円（1日平均4,557万円）となった。また、海岸線の乗車人員は1,776万人（1日平均4.9万人）、乗車料収入は22億4,033万円（1日平均614万円）となった。

その結果、地下鉄全線では、乗車人員は1億1,396万人（1日平均31.2万人）、乗車料収入は188億7,348万円（1日平均5,171万円）となった。

イ 主要事業

市営交通100周年を迎え、感謝の気持ちを込めて、これまでの歩みや果たしてきた役割をご理解いただくとともに、地下鉄のさらなるご利用につなげていけるよう、記念事業を実施した。

また、市営交通として、子育て世代が住みやすいまちづくりの一翼を担うための、新たな施策として、中学生以下の子どもを対象に地下鉄の通学定期券の通学要件をなくし、塾や習い事など自由な用途・目的に利用できる「U-15定期券」を発売するとともに、海岸線において中学生以下無料化の社会実験を行った。

他にも、西神・山手線三宮駅で、ホームドアの稼働を開始し、海岸線においては、大規模地震による津波浸水、広域停電に備えた非常時走行用の大容量蓄電池の整備が完了するなどの安全性の強化やお客様サービスの向上にむけて、I C O C A定期サービスの導入や駅トイレのバリアフリー化などを行った。

ウ 経理状況

西神・山手線では、59億6,623万円の純利益を計上しているが、海岸線では、42億8,446万円の純損失を計上している。この結果、地下鉄全線の純利益は16億8,177万円となり、平成29年度末の累積欠損金は769億7,015万円となった。

IV 決算の概要について

1. 業務量

(1) 西神・山手線

業務の種別		29年度 業務実績A	28年度 業務実績B	実績増減	
				A-B (C)	率 C/B
営業キロ程(km)		22.7	22.7	-	-
在籍車両数(両)		168	168	-	-
運転車両数(両)		59,586	59,616	△ 30	△ 0.1
運転走行キロ(千km)		16,787	16,794	△ 7	-
乗車人員(千人)		96,205	95,446	759	0.8
乗車料収入(千円)		16,633,154	16,602,003	31,151	0.2
営業日数(日)		365	365	-	-
一 日 平 均	運転車両数(両)	163	163	-	-
	運転走行キロ(km)	45,992	46,012	△ 20	-
	乗車人員(人)	263,576	261,495	2,081	0.8
	乗車料収入(千円)	45,570	45,485	85	0.2

(2) 海岸線

業務の種別		29年度 業務実績A	28年度 業務実績B	実績増減	
				A-B (C)	率 C/B
営業キロ程(km)		7.9	7.9	-	-
在籍車両数(両)		40	40	-	-
運転車両数(両)		11,208	11,332	△ 124	△ 1.1
運転走行キロ(千km)		2,674	2,670	4	0.1
乗車人員(千人)		17,755	16,589	1,166	7.0
乗車料収入(千円)		2,240,330	2,064,951	175,379	8.5
営業日数(日)		365	365	-	-
一 日 平 均	運転車両数(両)	31	31	-	-
	運転走行キロ(km)	7,325	7,314	11	0.2
	乗車人員(人)	48,643	45,451	3,192	7.0
	乗車料収入(千円)	6,138	5,658	480	8.5

*乗車人員・乗車料収入は敬老福祉パスを含む

*乗車料収入は税抜

2-1. 経営成績【全線】

(単位:百万円、税抜)

区 分		29年度決算 a	28年度決算 b	比較増減 a - b	伸び率(%) (a-b)/b		
收 益 的	收 入	営 業 収 益	21,047	21,051	△ 4	△0.0	
		運 輸 収 入	17,386	17,210	176	1.0	
			定期・定期外	16,737	16,595	142	0.9
			敬老利用者負担	649	615	34	5.5
		敬 老 福 祉 パ ス	1,488	1,457	31	2.1	
			敬老パス負担金	924	911	13	1.4
			福祉パス等負担金	564	546	18	3.3
		そ の 他	2,173	2,384	△ 211	△8.9	
	営 業 外 収 益	4,119	4,380	△ 261	△6.0		
		一般会計補助金	1,678	1,669	9	0.5	
		長期前受金戻入	2,400	2,679	△ 279	△10.4	
		そ の 他	41	32	9	28.1	
	計	25,166	25,431	△ 265	△1.0		
	支 出	営 業 費 用	20,268	20,357	△ 89	△0.4	
人 件 費			6,352	6,155	197	3.2	
経 費			5,012	5,141	△ 129	△2.5	
減 価 償 却 費		8,904	9,061	△ 157	△1.7		
		営 業 外 費 用	3,216	3,306	△ 90	△2.7	
		支払利息及び諸費	3,011	3,256	△ 245	△7.5	
そ の 他		205	50	155	310.0		
特 別 損 失		-	4	△ 4	皆減		
計	23,484	23,667	△ 183	△0.8			
経 常 損 益		1,682	1,768	△ 86	△4.9		
純 損 益		1,682	1,764	△ 82	△4.6		
累 積 損 益		△ 76,970	△ 78,652	1,682	2.1		
資 本 的 収 支	入	企 業 債	5,132	6,072	△ 940	△15.5	
		補 助 金	2,808	2,533	275	10.9	
		そ の 他	1,278	1,942	△ 664	△34.2	
		計	9,218	10,547	△ 1,329	△12.6	
	支 出	建 設 改 良 費	4,235	4,407	△ 172	△3.9	
		企 業 債 償 還 金	11,151	12,008	△ 857	△7.1	
		そ の 他	367	1,073	△ 706	△65.8	
		計	15,753	17,488	△ 1,735	△9.9	
収 支 差 引		△ 6,535	△ 6,941	406	5.8		
累 積 資 金 過 不 足		1,729	△ 6	1,735	28,916.7		

※資本的収支は税込

2-2. 経営成績【線別】

(単位:百万円、税抜)

区 分		西 神 ・ 山 手 線			海 岸 線			
		29年度決算	28年度決算	比 較	29年度決算	28年度決算	比 較	
收 入	営 業 収 益	営 業 収 益	18,613	18,774	△ 161	2,434	2,277	157
		運 輸 収 入	15,382	15,358	24	2,004	1,852	152
		敬 老 福 祉 パ ス	1,251	1,244	7	237	213	24
		そ の 他	1,980	2,172	△ 192	193	212	△ 19
	営 業 外 収 益	営 業 外 収 益	1,451	1,510	△ 59	2,668	2,870	△ 202
		一 般 会 計 補 助 金	939	964	△ 25	739	705	34
		長 期 前 受 金 戻 入	479	520	△ 41	1,921	2,159	△ 238
		そ の 他	33	26	7	8	6	2
	計		20,064	20,284	△ 220	5,102	5,147	△ 45
	支 出	営 業 費 用	営 業 費 用	13,175	13,052	123	7,093	7,305
人 件 費			5,091	4,959	132	1,261	1,196	65
経 費			3,517	3,623	△ 106	1,495	1,518	△ 23
減 価 償 却 費			4,567	4,470	97	4,337	4,591	△ 254
営 業 外 費 用		営 業 外 費 用	923	989	△ 66	2,293	2,317	△ 24
		支 払 利 息 及 諸 費	884	950	△ 66	2,127	2,306	△ 179
		そ の 他	39	39	-	166	11	155
		特 別 損 失	-	-	-	-	4	皆減
計		14,098	14,041	57	9,386	9,626	△ 240	
経 常 損 益		5,966	6,243	△ 277	△ 4,284	△ 4,475	191	
純 損 益		5,966	6,243	△ 277	△ 4,284	△ 4,479	195	
累 積 損 益		19,370	13,404	5,966	△ 96,340	△ 92,056	△ 4,284	
資 本 的 収 支	企 業 債 補 助 金	企 業 債	2,214	2,757	△ 543	2,918	3,315	△ 397
		補 助 金	142	59	83	2,666	2,474	192
		そ の 他	980	1,686	△ 706	298	256	42
		計	3,336	4,502	△ 1,166	5,882	6,045	△ 163
	建 設 改 良 費	建 設 改 良 費	2,733	3,167	△ 434	1,502	1,240	262
		企 業 債 償 還 金	3,479	3,874	△ 395	7,672	8,134	△ 462
		そ の 他	367	1,073	△ 706	-	-	-
		計	6,579	8,114	△ 1,535	9,174	9,374	△ 200
	収 支 差 引		△ 3,243	△ 3,612	369	△ 3,292	△ 3,329	37
	累 積 資 金 過 不 足		35,287	28,346	6,941	△ 33,558	△ 28,352	△ 5,206

※資本的収支は税込

<参考>

1. 敬老・福祉乗車等負担金

(単位:千円/税抜)

		25年度決算	26年度決算	27年度決算	28年度決算	29年度決算
	西神・山手線	748,565	785,438	793,699	794,434	801,544
	海岸線	120,825	119,883	118,613	116,130	122,359
敬老バス		869,390	905,321	912,312	910,564	923,903
	西神・山手線	391,218	418,861	446,193	449,561	449,952
	海岸線	83,416	87,693	95,262	96,635	102,885
福祉バス等		474,634	506,554	541,455	546,196	552,837
敬老・福祉乗車等負担金 計		1,344,024	1,411,875	1,453,767	1,456,760	1,476,740
	西神・山手線	550,757	566,931	567,217	556,829	586,264
	海岸線	64,386	62,540	61,168	58,376	63,843
敬老優待乗車 利用者負担額		615,143	629,471	628,385	615,205	650,107
合 計		1,959,167	2,041,346	2,082,152	2,071,965	2,126,847

2. 1日あたりの乗客数の推移

(単位:人)

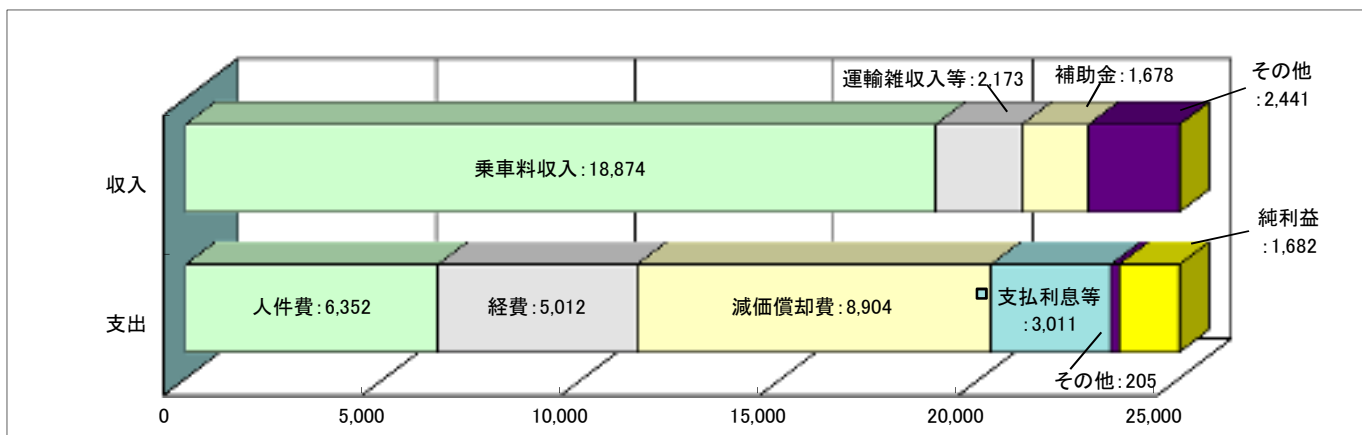
		25年度決算	26年度決算	27年度決算	28年度決算	29年度決算
	西神・山手線	231,160	230,080	232,408	231,637	232,195
	海岸線	37,345	37,985	38,891	39,890	42,486
有料乗車		268,505	268,065	271,299	271,527	274,681
	西神・山手線	15,163	15,444	15,545	15,386	16,830
	海岸線	2,616	2,540	2,506	2,461	2,838
敬老バス		17,779	17,984	18,051	17,847	19,668
	西神・山手線	14,414	14,339	14,376	14,472	14,551
	海岸線	3,055	2,995	3,059	3,100	3,319
福祉バス等		17,469	17,334	17,435	17,572	17,870
西神・山手線 計		260,737	259,863	262,329	261,495	263,576
海岸線 計		43,016	43,520	44,456	45,451	48,643
合 計		303,753	303,383	306,785	306,946	312,219

<参考>

①経営状況 平成29年度決算

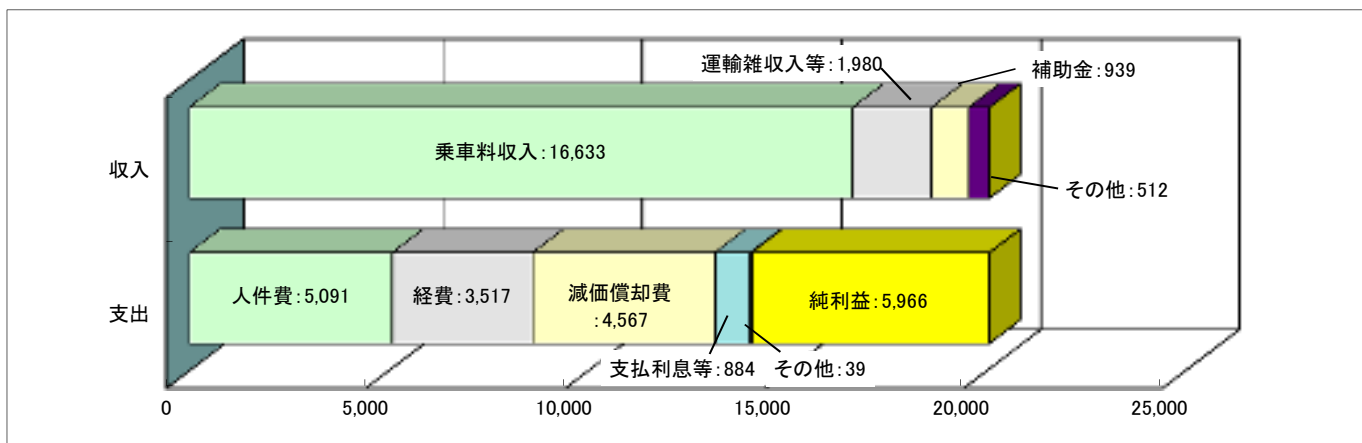
【全線】

(単位:百万円、税抜)

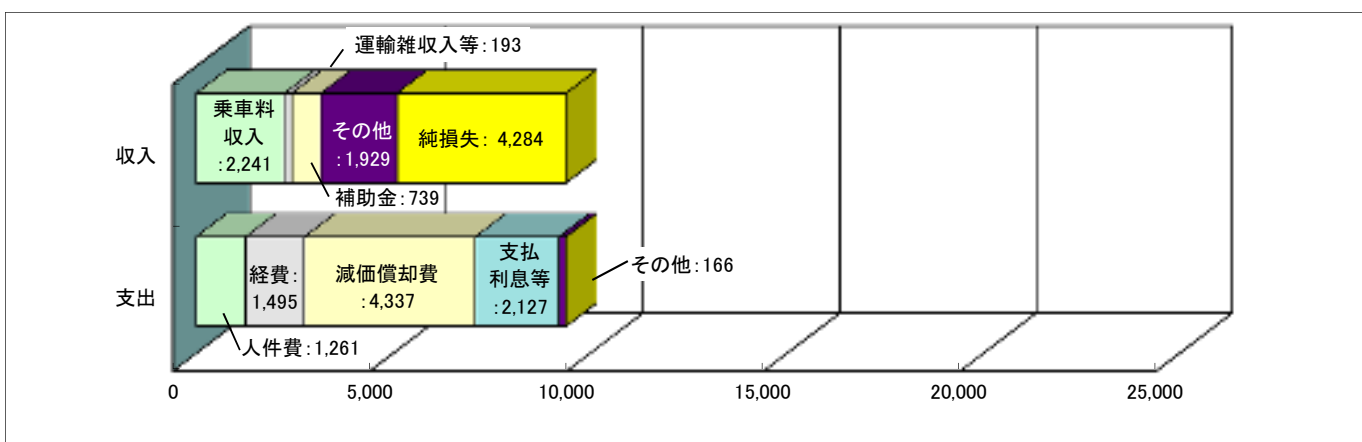


【線別】

(西神・山手線)



(海岸線)



※ 乗車料収入には、敬老福祉パス負担金を含む

②職員数

(単位:人)

	30年度 予算	29年度 (A)	28年度 (B)	増△減 (A-B)
損益勘定	602	601	600	1
事務	200	201	202	△1
技術	100	98	96	2
技士	75	75	75	-
運転士	118	118	118	-
車掌	55	55	55	-
駅掌	54	54	54	-
資本勘定	13	13	13	-
合計	615	614	613	1

③企業債残高

(単位:百万円)

	30年度 予算	29年度 (A)	28年度 (B)	増△減 (A-B)
年度当初残高	159,524	165,543	171,479	△ 5,936
償還額	10,678	11,151	12,008	△ 857
借入額	8,841	5,132	6,072	△ 940
年度末残高	157,687	159,524	165,543	△ 6,019

④経営指標

(単位:%)

	30年度 予算	29年度 (A)	28年度 (B)	増△減 (A-B)
経常収支比率	104.9%	107.2%	107.5%	△0.3%

V 主要事業について

～ 新規事業 ～

1. 中学生以下の子どもたちの定期「U-15定期券」の発売

1. 事業概要

地下鉄において、中学生以下の子どもを対象に、地下鉄通学定期券の通学目的に限定していた要件をなくし、学習塾や習い事など自由な用途・目的にご利用いただける「U-15（アンダー・ジュウゴ）定期券」を発売した。

「安心して子育て・教育ができる街づくり」に貢献するとともに、通学だけでなく学習塾や習い事にご利用いただくことで、地下鉄の利用を促進する。

2. 事業内容

(1) 発売日：平成 29 年 4 月 1 日 発売

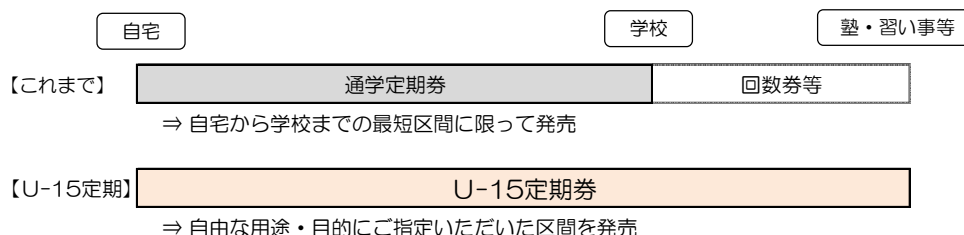
(2) 購入に必要なもの：通学証明書または健康保険証など年齢を証明できる書類

(3) 販売場所：市営地下鉄の各定期券発売所

(三宮駅、新長田駅、名谷駅、西神中央駅、神戸駅前の各定期券発売所)

(4) 割引率：約 60%（現行の地下鉄通学定期券と同率）

《使用例》



2. 地下鉄海岸線中学生以下無料化社会実験

1. 事業概要

地下鉄海岸線において、中学生以下の乗車料金を無料にすることにより、既設インフラの有効活用並びに若年世代及び子育て世帯の沿線地域への流入・定住を促進することで、地下鉄海岸線沿線・市街地西部地域の活性化を図るとともに、将来的な乗客数の増加につなげる。

期間中の乗車人員の増減等の変化や財政的な影響等を把握し、本格導入を検討する。

2. 事業内容

(1) 乗車料金：無料

(2) 実施期間：平成 29 年 7 月 1 日（土）～平成 30 年 3 月 31 日（土）の 9 か月

(3) 対象日・時間帯：全日・始発から終発まで

(4) 対象者：中学生以下の者全て

(5) 対象区間：地下鉄海岸線全区間

(6) 運用方法：磁気カード

※三宮・新長田定期券発売所で受付。中学生以下の身分証確認の上、交付。

3. 市営交通 100 周年記念事業

1. 事業概要

平成 29 年 8 月に市営交通開業 100 周年を迎え、これまで市営交通をご利用いただいているお客様への感謝の気持ちを発信するとともに、交通事業に対する関心・理解を深めていただき、市バス・地下鉄の利用促進につなげるため、以下の事業を実施した。

2. 事業内容

(1) 中学生以下の子どもたちの定期「U-15 定期券」の発売(再掲)

(2) 地下鉄海岸線中学生以下無料化社会実験(再掲)

(3) 関連イベントの実施

①市電デザイン列車の運行(3月 13 日～(平成 28 年度事業))

平成 29 年 3 月の市営地下鉄開業 40 周年を記念するとともに、市営交通開業 100 周年の皮切り事業として、市電カラーに塗装した特別列車を運行した。

②各区神戸まつりでの 100 周年 PR(5月 20 日)

平成 29 年 5 月 20 日に行われた各区のまつりに交通局のブースを出展し、なつかしの写真パネル展示と 100 周年記念グッズが当たる抽選会を実施し、日ごろ市バス・地下鉄をご利用いただいているお客様に市営交通 100 周年を PR した。

③花バスデザインラッピングバスの運行(5月～)

往年の花バスをモチーフにしたラッピングをバスに施し、神戸まつりのパレードでお披露目し、その後、営業運行することにより 100 周年を PR した。

④ボンネットバスで行く懐かしの旅(6月～9月)

兵庫区・長田区にある、昔ながらの商店街や神社等のお勧めスポットを、人気の高いレトロなボンネットバスで巡り、参加者が地域資源に触れる機会を創出し、市街地西部地域の活性化・地下鉄海岸線の乗客増を図った。

⑤小学生絵画コンクール・中学生作文コンクール

市内在住・在学の小学生を対象に“未来の市バス・地下鉄”をテーマに絵画のコンクールを、また、市内在住・在学の中学生を対象に“誰もが安全・安心に乗車できる市バス・地下鉄”をテーマに作文のコンクールを行った。

⑥8月 1 日に向けた周知・PR

・地下鉄駅やバスターミナルでの PR (7 月 21 日～8 月 21 日)

地下鉄三宮駅での柱巻や壁面広告枠での 100 周年の PR として、地下鉄西神・山手線三宮駅での PR を行うとともに、地下鉄全駅と市バス主要バスターミナルでも市営交通 100 周年と神戸開港 150 年のロゴを用いたのぼりを掲出し、PR を行った。

・地下鉄車内での放送及び駅・バスターミナルでの職員による PR (7 月 25 日～8 月 6 日)

地下鉄車内での 100 周年の周知アナウンスを実施するとともに、8 月 1 日(火)当日は、地下鉄三宮駅など主要駅やバスターミナルで、職員自らが、感謝の気持ちを伝えるべく、100

周年オリジナルポケットティッシュや記念シールの配布を行った。

⑦神戸市営交通 100 周年懐かしの写真パネル展(8月1日～6日)

市営交通 100 周年を迎えた 8 月 1 日、市役所の市民ギャラリーにて「市営交通 100 周年懐かしの写真パネル展」を開催し、あわせて 100 周年を記念したオリジナル商品の展示も行った。初日には、オープニングセレモニーも開催した。

⑧100 周年記念交通フェスティバルの実施(9月 24 日)

「交通フェスティバル 2017in 名谷車両基地」を 100 周年記念事業のメインイベントと位置付け、記念セレモニー、地下鉄車両撮影会、小学生絵画募集作品・中学生作文募集作品の展示などを実施した。

⑨御崎車両基地見学会の実施(10月 21 日)

御崎公園の下に位置し、海岸線の各種点検を行っている「神戸市交通局御崎車両基地」について、見学ツアーを開催。基地内の見学だけでなく、洗車体験やクレーンによる車体吊り上げ見学などを行った。

⑩市営交通 100 周年クイズ王決定戦(11月 4日)

神戸市交通局では初めてとなる、電車車内を使った「クイズ大会」を開催した。予選は西神・山手線の車内で実施、決勝は電車を降り、西神中央駅前のプレンティ広場で開催。

⑪市バス車両工場フェスティバル(11月 12 日)

平成 2 年に神戸市西区のハイテクパークに移転して以来、初めてとなる市バス車両工場フェスティバルを開催した。車両工場内では、神戸市バスの整備や車両検査装置の見学など各種イベントを実施した。

⑫車両連結及び軌道内施設見学会(12月 2日～3日)

緊急時しか実施しない車両同士の連結や普段は公開していない線路内各施設を、車内及び線路内を歩行しながら見学するイベントを実施した。深夜のイベントであるにも関わらず、約 500 名の方から応募があった。

(4)ふるさと納税の実施(29 年4月～30 年3月)

神戸市営交通 100 周年記念事業に対する寄附の受付を行った(ふるさと KOBE 寄附金制度)。返礼品としては、(1) 1～3 万円未満については市バス・地下鉄共通 NEW U ラインカードと平成 30 年度に実施予定の新型車両試乗会の参加券のセット、(2) 3 万円以上の寄付については、鉄道コレクション(1000 形車両・3 両セット)と新型車両試乗会の参加券のセット。

(5) 記念誌、グッズ等の制作・販売等

鉄道コレクションの制作・販売、記念動画の作成、記念パンフレットを発行。また、上屋の設置できないバス停におけるバス待ちの環境を改善するため、バス停(7か所)に 100 周年記念ロゴを表記した置き傘を試行的に設置した。

～ 継 続 事 業 ～

1. 安全で信頼される公共交通

1-1. 安全性の強化

(1) 運輸安全マネジメントによる安全性の向上

JR 西日本の事故を教訓に、平成 18 年 10 月、輸送の安全に向け、基本方針、重点施策、計画などを定めた市バス・地下鉄の「安全管理規程」を制定し、その運用を通じ安全運行に努めてきた。

平成 29 年度も、この安全マネジメントの運用をさらに実効性あるものにするため、非常事態を想定した訓練や各種研修、内部監査の実施、ヒヤリ・ハット情報の収集・活用、お客様への啓発活動など安全管理体制の一層の強化に努めた。

(2) 地下鉄のさらなる安全・安心運行の推進

安全性の確保は、公共交通機関における輸送の生命であり、お客様に安全に安心してご利用いただけるよう平素から全力をあげて事故防止に努めている。また、車両は 20 年目に大規模の車体改修を行い、変電所は約 35 年目ごとに全面更新するなど、施設や車両機器を計画的に更新し、さらなる安全・安心運行に努めている。平成 29 年度は、駅舎改修、分岐ポイント交換工事、変電所・駅電気室更新工事などを実施した。

(3) 地下鉄西神・山手線 ホームドア設置

駅ホームからの転落や車両との接触事故を防止するため、西神・山手線にホームドアの設置を進める。平成 29 年度は、平成 28 年度から実施している三宮駅のホームドアの稼働を開始した。

あわせて点字誘導ブロックの整備等関連する工事を実施するほか、新造車の停止精度の向上に対応するATO装置(自動列車運転装置)を順次線路部に設置した。

また、三宮駅にホームドアを設置したことによる、停車時分の影響などを十分に精査した上で、現行の運行ダイヤを確保できる範囲で西神・山手線の他駅への早期設置について検討を行った。

(4) 災害対策の強化

地下鉄海岸線における大容量蓄電池の設置や、建物の耐震改修などの施設整備を行うことで、南海トラフ地震などの大規模災害に備える。平成 29 年度は大容量蓄電池の整備が完了した。

また、市バス松原営業所の建て替えに着手した。

1-2. 利便性の向上

(1)わかりやすい案内・サインの充実

市バスをより多くの方にもっと便利にお使いいただけるよう、バス情報提供システム「えきバスびじょん。」(西神中央駅、名谷駅設置)、パソコンやスマートフォンから市内の公共交通機関の乗継検索が出来る「KOBE 乗継検索」などのサービスを提供した。

また、バス停での英語表記、地下鉄での多言語案内やピクトグラム表示を進めるとともに、職員への語学研修も実施し、国外からのお客様にもわかりやすい案内が出来るようハード、ソフト両面の取り組みを進めた。

(2)バスロケーションシステムの提供

パソコンやスマートフォンで、バスが実際にどこを走っているのか、ご確認いただける「バスロケーションシステム」を提供した。また、システム運用で使用している車載機器を活用した第二弾の実証実験として、利用者・市民への更なる情報発信となるデジタルサイネージの実証実験を実施している。

1-3. 快適性の向上

(1)利用者に配慮したバス停・バスターミナルの整備

高齢化社会の進展に伴い、高齢者の方に安心してより快適に市バスを利用していただけるよう、バス停におけるベンチ・上屋の設置を積極的に進めた。

また、デザイン都市神戸の街並みにふさわしく、いつもきれいで安全なバス停・バスターミナルを目指し、老朽化したバス停・バスターミナル施設の補修に努めた。

(2)高齢者等の利用に配慮した駅トイレの改修

高齢者や外国人の方をはじめ、お客様の快適性向上のため、西神・山手線の駅トイレの改修を行った。また、トイレを利用しやすい空間とするだけでなく、女子トイレにおいてはパウダーコーナーや、小児用小便器を設け、お客様の利便性の向上を図った。平成 29 年度は、新長田駅のトイレの改修を行い、これに伴い、西神・山手線の全駅のトイレ改修が完了した。海岸線では、平成 28 年度に新長田～中央市場前駅の 6 駅について大便器の一部洋式化を行っており、平成 29 年度は三宮・花時計前～ハーバーランド駅の 4 駅のトイレを一部洋式化したことで、海岸線全駅の一部洋式化が完了した。

1-4. お客様のニーズに応じた取り組み

(1) 需要に応じた路線・ダイヤの設定・見直し

バス路線に対する市民要望に応え、路線の変更などを実施するとともに、増便や減便、始終発延長など、効率的なダイヤ編成を引き続き行った。

① 路線変更

系統	現行区間	変更内容	備考
47 系統	西神南駅前～井吹台西町4～西神南駅前	いぶき明生支援学校まで延伸（直行便：1往復）	平成29年4月1日実施
51 系統	舞子駅前～東舞子小学校前～星陵台～県商前（～学園都市駅前）	学園都市駅前まで延伸（5.5往復）	平成29年4月1日実施
53 系統	舞子駅前～本多聞5～舞子高校前～学が丘～学園都市駅前	神戸国際大学附属高校まで延伸（直行便：朝2便）	平成29年4月1日実施

② バス停新設

系統	区間	新設箇所	備考
7 系統	市民福祉交流センター前～三宮駅前～平野～新開地～神戸駅前	バス停1か所を新設（「トアロード」（南行のみ））	平成29年4月1日実施
43 系統	サンシャインワーフ～神大海事科学部前～JR本山駅	バス停1か所を新設「本山第三小学校前」	平成29年5月27日実施

③ 始終発延長、増便、減便等

系統	現行区間	内容	備考
5 系統	若草町～広畑橋～板宿～新長田駅前～板宿～明神町～若草町（一部は妙法寺駅前発着）	133本→132本	平成29年4月1日実施
7 系統	市民福祉交流センター前～磯上公園前～三宮駅前～平野～新開地～神戸駅前	240本→226本	平成29年4月1日実施
9 系統	神戸駅前～大学病院前～平野～地下鉄上沢駅前～兵庫駅前～吉田町1（昼間是一部、上沢駅前～地下鉄長田駅前～水木小学校前～兵庫駅前経由）	「吉田町」始発繰上	平成29年4月1日実施
11 系統	神戸駅前～新開地～房王寺町5～宮川町9～五位ノ池～板宿	172本→164本 「神戸駅」終発延長	平成29年4月1日実施

系統	現行区間	内容	備考
19 系統	阪神御影～城ノ前～阪急御影～甲南病院前～鴨子ヶ原（循環）	67 本→63 本	平成 29 年 4 月 1 日実施
21 系統	西神中央駅前～美賀多台 3～かすがプラザ～西体育館	49 本→48 本	平成 29 年 4 月 1 日実施
32 系統	JR 六甲道駅～阪急六甲～御影山手～阪急六甲～JR 六甲道駅	32 本→34 本 「御影山手」始発繰上	平成 29 年 4 月 1 日実施
37 系統	滝ヶ鼻～JR 住吉駅前～北青木～深江南町～JR 甲南山手	終発延長	平成 29 年 4 月 1 日実施
38 系統	阪神御影～東灘区役所前～白鶴美術館前～渦森台	153 本→139 本	平成 29 年 4 月 1 日実施
39 系統	阪神御影～住吉宮町～JR 住吉駅前～中御影～阪急御影～甲南病院前～鴨子ヶ原（循環）	24 本→20 本	平成 29 年 4 月 1 日実施
46 系統	西神南駅前～ハイテクパーク～西神南駅前	63 本→64 本 「西神南駅」終発延長	平成 29 年 4 月 1 日実施
47 系統	西神南駅前～井吹台西町 4～西神南駅前	36 本→38 本 （西神南駅⇔いぶき明生支援学校（直通 2 本増））	平成 29 年 4 月 1 日実施
51 系統	舞子駅前～東舞子小学校前～星陵台～県商前（～学園都市駅前）	52 本→48 本 （11 本を「学園都市駅」まで延伸）	平成 29 年 4 月 1 日実施
舞子線 （53・54 系統）	舞子駅前～本多聞 5～舞子高校前～学が丘～学園都市駅前	168 本→160 本 （神戸国際大学附属高校乗り入れ（直通 2 本増）「舞子駅」発）	平成 29 年 4 月 1 日実施
	舞子駅前～公団住宅前～多聞団地センター～学園都市駅前	111 本→114 本	
56 系統	学園都市駅前～学園緑が丘～学園都市駅前	26 本→27 本	平成 29 年 4 月 1 日実施
65 系統	神戸駅前～菊水町 10～ひよどり台	112 本→109 本 「神戸駅」始終発延長	平成 29 年 4 月 1 日実施
71 系統	須磨一の谷～離宮公園前～多井畑厄神～北須磨団地	30 本→26 本	平成 29 年 4 月 1 日実施

系統	現行区間	内容	備考
72 系統	須磨一の谷～離宮公園前～下畑 ～多井畑厄神～須磨一の谷	33 本→34 本	平成 29 年 4 月 1 日実施
75 系統	須磨一の谷～離宮公園前～こども も病院前～高倉台～横尾～妙法 寺駅前（一部は JR 鷹取駅発須磨 区役所経由）	212 本→194 本	平成 29 年 4 月 1 日実施
88 系統	妙法寺駅前～多井畑厄神～下畑 ～柏台～清玄町～多井畑南町～ 妙法寺駅前	25 本→27 本 「妙法寺駅」終発延長	平成 29 年 4 月 1 日実施
96 系統	神戸駅前～七宮町～兵庫駅前～ 地下鉄長田駅前～東尻池 2 ～新 長田駅前～七宮町～神戸駅前	22 本→25 本	平成 29 年 4 月 1 日実施
110 系統	神戸駅前～大学病院前～房王寺 町 5 ～宮川町 9 ～板宿～ J R 鷹 取駅	39 本→24 本 「神戸駅」終発延長 「 J R 鷹取駅」終発延長	平成 29 年 4 月 1 日実施
112 系統	神戸駅前～大学病院前～房王寺 町 5 ～宮川町 9 ～五位ノ池～地 域福祉センター下～ J R 鷹取駅	「神戸駅」終発延長	平成 29 年 4 月 1 日実施
121 系統	学園都市駅前～学が丘～掖済会 病院前～本多聞 7 ～西部障害者 センター～掖済会病院前～学が 丘～学園都市駅前	山陽バスと共同路線化 11 本→5 本(山陽バス 6 本)	平成 29 年 4 月 1 日実施
125 系統	妙法寺駅前～車大道～若草町～ 清水台～妙法寺駅前	25 本→28 本 「妙法寺駅」終発延長	平成 29 年 4 月 1 日実施

(2) 学校等への直行便の運行

特に学校を中心とした同じ目的地へ大量に運ぶ必要がある場合に、迅速かつ効率的な輸送が出来るよう、直行便の運行について取り組んだ。

- ・神戸国際大学付属高校
- ・いぶき明生支援学校
- ・神戸女子大学
- ・神戸大学

1-5. 質の高いサービスの提供

(1)接客マナー・安全意識の向上とサービス改善・事故防止

市バス・地下鉄の安全・安心な運行を目指すとともに、親切丁寧な接客姿勢やサービス規律の徹底を通し、質の高いサービスの提供に努めた。

市バスでは、「乗務員研修」や「添乗調査」などを実施するとともに、実際の事故をドライブレコーダーで検証し、事故防止を図った。また、グッドドライバー賞などの優秀な職員への表彰制度を活用し、意識啓発に努めた。

地下鉄では、定期教育訓練や外部講師による応対研修などを実施し、また業務上の危険や事故を未然に防いだ優秀な職員に対して運輸長表彰を行い職員の意識啓発に努めた。

(2)お客様の意見を取り入れた業務改善

市バスの「お客様の声ハガキ」や地下鉄の「メッセージBOX」や地域の集まりなど、あらゆる機会をとらえてお客様の意見を積極的に取り入れた。さらに、「お客様満足度調査」を実施し、サービスの向上と業務改善につなげた。

2. まちづくりや地域社会への貢献

2-1. 人にやさしい公共交通

(1)市バス低床化 100%に伴う停留所における点字ブロック設置の推進

すべての人が乗り降りしやすいバス車両のバリアフリー化を目指して車両更新を行ってきた結果、平成 24 年度末に、交通バリアフリー法による移動円滑化基準に適合したバス車両による「市バス低床化 100%」を達成しており、これに伴うバス乗車口の中扉化に対応した停留所の点字ブロック設置および位置改修を、順次実施した。

(2)市バス福祉体験授業の実施

ノンステップバスを活用し、市内の小学生が車いすなどでの乗車体験や介助体験を通して福祉について学ぶ「市バス福祉体験授業」を、平成 29 年度は市内の小学校 14 校で実施した。

[取組実績]

- 平成 25 年度：市内の小学校 18 校
- 平成 26 年度：市内の小学校 20 校
- 平成 27 年度：市内の小学校 19 校
- 平成 28 年度：市内の小学校 15 校
- 平成 29 年度：市内の小学校 14 校



(3)駅施設のユニバーサル対応の推進

ひとにやさしい地下鉄を目指して、多様な利用者のニーズに対応するため、ユニバーサルデザインに配慮した施設の整備を進めていく。平成 28～30 年度で、三宮駅西口のホーム階からコンコース間のエレベーター設置の工事を実施するとともに、東西連絡通路の設置可能性について検討を行った。

2-2. 環境にやさしい公共交通

(1)エコファミリー制度、エコショッピング制度の実施

マイカー利用から公共交通利用への転換を促すため、土・日・祝日、夏休みなどに、大人が同伴する小学生以下の料金を無料にするエコファミリー制度を引き続き実施した。また、市バスまたは地下鉄を利用して提携店舗に来店したお客様に割引などのサービスを提供するエコショッピング制度を、商店街や個別店舗の協力を得て引き続き実施した。

(2)省エネルギー対策の推進

こうべバイオガスの継続利用

下水の処理過程で発生する消化ガスを精製した「こうべバイオガス」を利用する市バスの営業運行を平成 18 年 10 月より実施している。平成 29 年度も引き続き、魚崎営業所に在籍するCNGバス全車(平成 29 年度:11 両)で、環境にやさしい「こうべバイオガス」を燃料として営業運行を行った。

照明の LED 化

鉄道の省電力化・低炭素化のため、駅・施設の照明設備をLED化する。平成 29 年度は、海岸線の新長田駅、御崎公園駅、中央市場前駅、ハーバーランド駅、御崎車両基地・車両工場等の照明設備のLED化を行った。

(3)市バス走行環境の改善

市民の大切な足である市バスの定時運行・安全運行を確保するため、主要なバス停にガードマン・誘導員を配置した。また、市バスの走行環境を守るための啓発活動や関係機関への要請活動などに取り組んだ。

3. 「市民の足」であり続けるための経営基盤強化

3-1. 収益力の向上

(1)市バスの乗客増対策の推進

市バスの乗客増のために、三宮駅～神戸駅周辺に点在する一宮から八宮の神社を市バスで巡拝する「八社巡り」や北区の国指定重要文化財を巡る「北区重要文化財めぐり」、灘の酒蔵を巡る「酒蔵めぐり」のほか、平成 30 年2月より開始した縁結びのパワースポットを紹介する「恋愛パワースポットを市バスでめぐる」など、市バスを使って楽しめる周遊コース等の企画、PR を引き続き行った。また、平成 26 年度から開始した IC カードによる市バス乗継割引をさらに市民の方に使用していただけるよう、制度の周知を引き続き行った。

(2)海岸線乗客増対策の推進

海岸線の乗客増対策として、交通局自主イベントのほか、地域・関係機関とタイアップした各種事業を積極的に展開した。

○ボンネットバスで行く懐かしの旅(再掲)

○ノエビアスタジアム神戸利用促進事業の推進

平成 28 年度に引き続き、海岸線沿線の大規模集客施設であるノエビアスタジアム神戸を活用した積極的なイベント開催及び誘致を継続した。

○海岸線沿線における交通局自主イベントなどの実施

海岸線の乗客増対策の一環として、交通局主導で沿線地域の企業・店舗などと連携した事業を展開した。

○トップスポーツチームとの連携事業の展開

主にノエビアスタジアム神戸をホームグラウンドとするトップスポーツチームとタイアップ企画を実施し、乗客増及び集客増に向けた取り組みを行った。

○イオンモールとの連携

平成 29 年6月の一部開業に向けてイオンモールと連携をして改札付近から店舗のメイン入口につながる連絡通路を整備した。また一部開業時から、来店ポイント制度(グリーンスコア)などの施策によって、海岸線の利用促進を行った。

○海岸線沿線情報の発信

交通局沿線情報サイト「神戸市交通局沿線NAVI」を活用し、海岸線沿線などで実施する交通局の取り組みや、各種のイベント情報などを効果的に発信した。また、海岸線の乗客増が見込めるイベントへの広報協力を展開することで、より効果的な乗客増及び集客増を図った。

(3) 駅ナカビジネスの推進

地下鉄の収益力強化とお客様の利便性向上を目的に、駅構内の空きスペースを有効活用し、駅ナカビジネスの推進に努めている。

平成 29 年度も、小さなスペースで実施が可能なワゴンセールを複数の駅で引き続き実施した。また、退店があったスペースには、お客様の利便性向上につながるような店舗の誘致に努め、お客様サービスの向上及び財政基盤の強化に取り組んだ。

3-2. 経営の効率化

市バス営業所の管理委託の継続

自動車事業における経営改善として営業所の管理委託を継続した。平成 29 年度については、平成 28 年度に実施した提案競技で決定した各営業所の受託事業者へ営業所の委託を行った。

委託営業所	受託事業者
魚崎営業所	神戸交通振興(株)
松原営業所	阪急バス(株)
落合営業所	神姫バス(株)
西神営業所	〃